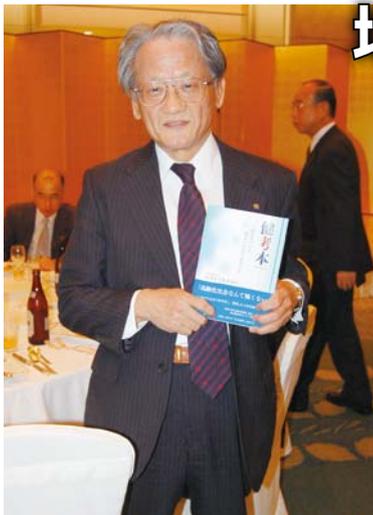


健診事業 50 年を機に名称変更し新たな取り組み始動

地域連携重視した予防医療を構築



▲健診事業 50 周年を記念し発刊した「健考本」を手にする副島院長



▲福田桐熊本県医師会長の首頭で乾杯した



菅 守隆
予防医療センター長



須古 博信
名誉院長

濟生会熊本病院



▲予防医療センターに携わる医師の紹介



▲▶県内経済人や医療関係者らが多数参加した



福田 桐
熊本県医師会会長

はじめに副島院長は「健診事業を開始した当初から現在では疾病構造や保険、医療制度などは大きく変わっている。医療技術も進歩しておりこれからの予防医療は『守り』の姿勢から、『攻め』の姿勢に転じるというコンセプトで新たなスタートを切った」とあいさつした。

会では須古博信名誉院長が、健診事業 50 年の歩みをテーマに講演したほか、菅守隆予防医療センター長が同センターの新たな指針を説明。①地域医療機関やかかりつけ医との連携強化による地域一帯となった健康管理体制の構築②質の高い予防医療の提供③会員制健康クラブや新規メニューの立案による個人に合った先進的な予防医療の 3 つの基本方針などを説明した。

また、50 年を記念して発刊した、様々な疾患とその対応などを詳細に記した「健考本」の披露などもなされた。

濟生会熊本病院（熊本市南区近見 5 丁目、副島秀久院長）は 5 月 18 日、ホテル日航熊本で「健診事業 50 周年の集い」を開き、健診センターの名称の変更と新たな活動指針を発表した。

今年は、同院が同市段山本町で健診事業を開始して 50 年、現在地に健診センター棟をオープンして 10 年の節目の年。4 月から健診センターを「予防医療センター」に改称し、さらに質の高いサービスを目指す。